

月刊



平成23年3月1日発行 通巻182号  
 昭和40年8月21日第3種郵便物認可  
 発行/社団法人 滋賀県建築士会  
 〒520-0801  
 滋賀県大津市におの浜1-1-18 建設会館 3F  
 TEL077-522-1615 / FAX077-523-1602

社団法人 滋賀県建築士会

URL : <http://www.kentikushikai.jp/> mail : [shiga-sa@mx.bw.dream.jp](mailto:shiga-sa@mx.bw.dream.jp)

湖国が滋る・水と緑の街づくり

## CONTENTS

- ・平成22年度 臨時総会の開催について…………… 2
- ・平成22年度 二級・木造建築士免許証明書交付式開催報告
- ・第2回「未来の家」「未来のまち」子ども立体作品展開催報告… 3
- ・会員証・CPDカードの発送について
- ・青年部会 研修旅行 報告 … 4
- ・青年部会 ベニヤドーム in 葉山 幼稚園 事業報告
- ・近建青事業 近畿あーきてくと 2011「再生の時代」報告
- ・女性部会 長浜研修 報告 … 5
- ・青年部会 第7回ゴルフコンペ開催のお知らせ
- ・アイ・湖国びとの愛情視線 第3回…………… 6
- ・支部だより…………… 7  
 湖南支部・湖北支部
- ・新入会員のご紹介
- ・3月の暦
- ・「あきんど号ラリー参戦記」〈第3回〉…………… 8
- ・滋賀の街道（西近江路）



滋賀の街道  
 (第17回)

## 西近江路(北国海道) 下阪本

現在の国道161号線の四ツ谷から比叡辻にかけて、旧街道はS字に交差しながらところどころにかつての風情を残して現存しています。下阪本では国道の山側を、比叡辻では琵琶湖側を通ります。

四ツ谷から下阪本の旧道に入ると見越しの松がならび、ここが古くから栄えていたこと、現在も沿道の住民の皆さんが努力して景観を守っていることがわかります。四ツ屋町に鎮座する志津若宮神社、坂本城跡の石碑、その奥にある東南寺（延暦寺の末寺）、明智光秀一族を祀った明智塚、両者の辻を左に曲がったところにある酒井神社と両者神社など、時間を忘れさせる名所が続きます。

中世の時代、ここは三津浜などとも呼ばれていました。坂本の外港としての役割を担い、ここで多くの荷物が陸揚げされ、延暦寺へ、あるいは山中越えで京都へ運ばれていました。

## 平成22年度 臨時総会の開催について

本会では、平成22年4月1日より、滋賀県指定登録機関として、二級・木造建築士の登録業務を実施しております。指定登録機関では、事業年度開始前までに「翌年度の事業計画書（案）及び収支予算（案）の承認」と「滋賀県知事への提出」が義務付けられております。つきましては、下記の日程により「臨時総会」を開催し、ご審議を賜りたく存じますので、よろしく申し上げます。なお、会員のみなさまにはすでにご案内をしております。

**開催日時** 平成23年3月23日(水) 14:00～15:30

**場 所** 滋賀県建設会館 4階 大ホール  
大津市におの浜 1-1-18  
TEL.077-522-1615

**出欠について** 準備の都合上、平成23年3月15日(火)までに返信はがきを必ずご投函下さい。ご欠席の方は委任状をお出しください。

### 次 第

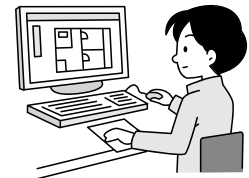
1. 開会の辞
2. 国歌斉唱
3. 綱領斉唱
4. 会長挨拶
5. 議 事  
①平成23年度事業計画書(案)承認の件  
②平成23年度収支予算書(案)承認の件  
③その他
6. 報 告  
①公益法人制度改革に向けての経過報告について
7. 閉会の辞

## 平成22年度 二級・木造建築士免許証明書交付式 開催報告

平成23年2月5日(土)に「ピアザ淡海」にて二級・木造建築士免許証明書交付式を、(社)滋賀県建築士会の主催で執り行いました。

二級建築士109名（受験者数407名）、木造建築士12名（受験者数22名）計121名の新建築士の旅立ちに、滋賀県土木交通部建築課 我孫子課長の臨席を賜り、山本会長に依る免許交付に引き続き、姉川担当委員会副委員長に依る「建築士業務を進める上での注意事項」の説明をさせて頂きました。

滋賀県より指定登録機関としての認定を受けて初めての交付式で、また免許証も従来の賞状形式からカード形式に変更され、昨年まで滋賀県主催で開催されてきました交付式とは少し趣の違った交付式となりました。当日は、本会四役・各支部支部長・青年部・女性部・渉外事業委員会の方々のご協力の下、7名の新建築士の当日入会が有りました。



新建築士の当日入会者数

●湖 南	1名
●甲 賀	2名
●湖 東	2名
●彦 根	1名
●湖西高島	1名



## 第2回 「未来の家」「未来のまち」子ども立体作品展 開催報告

昨年度に引き続き、第2回「未来の家」「未来のまち」子ども立体作品展を開催しました。

本作品展には大津市、草津市及び守山市の公立幼稚園28園から178点の立体作品の展覧があり、1月29、30日の2日間、イオンモール草津「イオンホール」にて展示しました。

2日間で2,000名強の来場者で賑い、30日には各賞受賞者の表彰式が行われ、子供たちも笑顔で表彰式に臨んでくれました。

昨年度に比べ、参加幼稚園、出展作品も倍増し、幼稚園の先生方には注目いただいている作品展になりつつあります。また出展作品のレベルも全体的に上がり、事前に行われた審査会では審査委員のうれしい悲鳴が聞こえました。

参加してくれた子供たちにはこの作品展への出展の思い出が将来の建築士への夢に変わることを期待しつつ、出展いただいた幼稚園の方々、各賞を選んでいただいた審査員の方々、また立体作品展にご協力いただいたの方々にはこの場を借りて改めてお礼申し上げます。

各受賞者は次の通りです。

●滋賀県知事賞	
守山市立守山幼稚園年長組	白根 若菜さん
作品名	「そらとぶおかしのおうち」
寸評	幼児の夢が作品によく表現されています。
●滋賀県教育委員会教育長賞	
大津市立青山幼稚園	南 愛理奈さん
作品名	「もりのおうち」
寸評	自然と住まいを大胆に表現しています。
●滋賀県建築士会会長賞	
大津市立晴嵐幼稚園	前田奈々子さん
作品名	「たのしいおうち」
寸評	楽しさいっぱい未来のおうちです。
●滋賀県建築住宅センター理事長賞	
草津市立笠縫東幼稚園	荒瀬 裕太さん
作品名	「ジェットキランド」
寸評	遊園地での楽しさを良く表現しています。

その他、佳作2点、がんばったで賞23点が受賞されました。

展示会場の様子



展示会場内で行われたフォトコンテストコーナー。沢山の方々に投票をして頂きました。結果は機関誌「家」にて発表されます、お楽しみに！

## 会員証・CPDカードの発送について

会員の方には会員証・CPDカードを随時、書留にて発送しております。

到着次第、ご自身のお名前、建築士番号をご確認いただき、記載内容に間違い等がございましたら事務局までご連絡ください。

### お問合せ先

(社)滋賀県建築士会 TEL.077-522-1615 FAX.077-523-1602



青年部会は今年度35周年をむかえたことを記念し、韓国ソウルへの研修旅行を行いました。この10年間、建築家の輸出国となっている日本に対し、韓国は世界の著名な建築家を招き入れ、巨大なプロジェクトを生みだしています。ソウルではレム・コールハース(オランダ)、マリオ・ボッタ(スイス)、ジャン・ヌーベル(フランス)といった巨匠の作品が街を塗りかえるように次々と完成しています。この研修旅行ではこれらの建築の中で日本で類をみないものを選んで見学しました。



東大門デザインパークの説明を受ける

梨花女子大キャンパス・コンプレックス (設計：ドミニク・ペロー)	東大門デザインパーク&パーク (設計：ザハ・ハディッド)	ソウル大学美術館 (設計：レム・コールハース)
2008年にフランスの建築家、ドミニク・ペローの設計によりつくられたキャンパス。丘を切り裂いて、一見壁のように見える両サイドに教室や劇場があります。1935年に竣工したヴォーリスによる建築群とのコントラストも見事でした。	かつて東大門運動場があった6万㎡の敷地の再開発としてデザインギャラリーやイベントホールを持つ巨大な複合文化施設です。建設中の本体建物と既に完成している公園部分の美術館やカフェを見学しました。	韓国一の名門であるソウル大学の玄関口に2005年に竣工した美術館。鋭く傾斜する片持ちのボリュームが浮かぶダイナミックなエントランスと展示室や講義室が立体的に連なる内部空間が圧巻でした。人工照明をほとんど利用していないことも新鮮な驚きでした。

1月11日(火)に開催されました、葉山幼稚園おひさま会(保護者の会)の主催する交流イベントに参加しました。これは、保護者同士の交流や保育園と保護者との連携と信頼関係を築く事を目的としたイベントとして毎年行われております。その中で、建築士として、普段の保育園での遊びとは違った視線での“ものづくり”の楽しさを伝えてきました。親子が一緒にものづくりの時間を共有したり、家族間がふれあったりと、大変楽しそうに参加していただきました。そして、建築士(会)を身近に感じていただき、我々の社会的な役割を発信できたと感じております。ご参加・ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。事業報告とします。



去る、平成23年2月5日にTKP大阪梅田ビジネスセンターにおいて地域実践活動発表会が行われました。今年は例年に比べて参加者が非常に多く、180名近くの方に来て頂き大盛況となりました。今年のテーマは「再生の時代」で、各府県からの発表がありました。滋賀県からは本会青年部会副委員長の木村敏氏に「歴史街道と山村集落の一体的再生」と題して発表して頂き、各府県からも高い評価を頂きました。地元地域からもたくさんの参加者に来て頂き、また、地元の間伐材を利用したベンチ等の製品展示もあり盛り上げて頂きました。



滋賀発表

限界集落での活動は滋賀県に限らず、全国各地域が経験するであろうこれからの在り方と感じさせられました。また、今年からは学生枠を設け、古民家を再生する取り組みをしているグループに発表して頂き、これからの私達建築士のありかた、取り組み方など考えさせてくれる一幕もあり、有意義な時間となりました。

第二部では「つながりの再生」をテーマに「studio-L」代表、山崎亮氏に講演して頂きました。その場でのパワーポイントの編集、発表と非凡な場面も見られ、その中で、建築の可能性、今の私達を取り巻く現状をわかりやすく講演して頂きました。建築に限らず様々な活動を通じ、これからの地域活動の在り方、決して上向きでない現

状をどうしていくかに主眼を置いた講演となりました。「再生の時代」は発表を通じ、日本の人口減少に伴う事柄は、これから私達建築士の重要なキーポイントになると感じました。学生の発表は、これからの世代を担う力強いものを感じ、嬉しく感じました。各発表、講演会、交流パーティーを通じ、ご参加頂いた方はこれからの活動、仕事にヒントになったものがあるのではないのでしょうか。ご参加頂いた皆様どうもありがとうございました。

## 女性部会

### 『先進地、長浜の再活性化—体験型宿泊施設を味わう』 「町屋修復再生その後体験および新年会」の報告

#### 研修会の部



「雲」二階和室

昨年、本会総会で行われた『長浜市市街地再生事業計画2009 活性化事業 町屋修復再生』の工事見学会。これが完成したのを機に宿泊体験を致しました。湖北支部・彦根支部・高島支部の協賛も頂き参加者19名（内宿泊者10名）と多くの方に参加いただきました。伊藤副会長には講師として《太子講》が行われている最も重要な日に時間を割いていただき夜8時前から小一時間ほどお話しいただきました。町屋ホテルの名にふさわしい設えで時空を超えたようなひととき。炬燵に入り、ほのかなあかりと雪の庭園を眺めながら、事業をすすめてこられた御苦労や思いをお聞きすることが出来、地元で地元の活性を真剣勝負で活動されておられる様子がうかがえ《意思あるところ 道あり》だなと深く思った次第です。終了後お見送りさせて頂きましたが、着物姿に町屋の風景がしっとりとし似合い、雪の合間にみられた月も印象的でした。



伊藤光男氏の講演

#### 新年会の部

『女性部会の今後について』の語らいは和気あいあいとにぎやかに一夜を過ごせ、会員同士の気持ちが一つになった事が最大の収穫だったように思います。又このように工事見学会でおおらせず、竣工後、実際ユーザーの目線で見つめる体験が出来、町屋（古民家）再生の仕事にも活かして行けるので、いい勉強が出来たと思っています。



トイレ

(河島明美記)

## 青年部会

### 第7回ゴルフコンペ開催のお知らせ

下記のとおり、今回で第7回目となりますゴルフコンペを開催いたします。日頃、出会う機会の少ない仲間と出会い、親睦と情報の交換ができればと企画しました。人脈を作る絶好の場です！ゴルフ好きの方！まだ初心者の方でもこの機会にぜひお集まりください！参加者の皆さんには気軽に大に楽しんで頂きたいと思っております。みなさまお誘い合わせの上、ふるってご参加ください！お待ちしております。

- 日 時：平成23年4月9日(土) 雨天決行
- 場 所：甲賀カントリー倶楽部 湖南省三雲3354 TEL.0748-72-1221
- 費 用：未 定
- 募 集 人 員：先着8組32名（定員になり次第締切）
- 参 加 申 込：3月31日(休)までに下記申込欄にご記入の上、FAXかご郵送にてお送り下さい。  
※参加者の方には、後日、詳細を送付いたします。

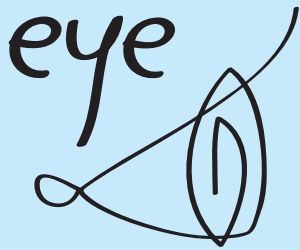
(社)滋賀県建築士会青年部会

第7回ゴルフコンペ申込用紙

参加者お名前		住 所	
生 年 月 日		所属支部	
参 考 H D		FAX番号	

※後日詳細をご案内いたしますのでFAX番号の記載漏れにご注意ください。

(社)滋賀県建築士会 事務局〈FAX.077-523-1602 郵送の場合:大津市におの浜1-1-18〉



— アイ・湖国びとの愛情視線 —

### 第3回 県立安曇川高校1年 古閑 愛美さん

## 湧水の活用で「建築甲子園」優勝



こが めぐみ  
古閑 愛美さん

1994年、高島市今津町生まれ。「“普通”をひっくり返すような」型にはまらない建築士を目指す。普段はおしゃべりやショッピング、浜崎あゆみの歌が大好きな女の子。

2010年秋、建築士を目指す高校生を対象にした初のコンペ「建築甲子園」(日本建築士会連合会、都道府県建築士会主催)が行われた。全国61校から寄せられた87作品の中から優勝に輝いたのは県立安曇川高校総合学科建築デザイン系列1年、古閑愛美さん(16)の「わたしのまちの油田」。湧水を家に引き込み、四季を通じて生活に利用する高島市新旭町針江地区などの“川端”のシステムを取り入れた提案が高く評価された。

「建築についてまだ何も知らなかったもので、最初はコンペの趣旨を理解することすらできず大変でした」とスタートを振り返る。建築デザイン系列では1年生現在11人が学んでいるが、入学して半年は一般教養の課程が続き、専門コースの学習が始まるのは10月から。コンペの募集を知った7月の時点では建築の知識はゼロに等しかった。それでもチャレンジを決めたのは必ず力がつくと信じたから。「これは1級建築士になる夢に踏み出す第一歩」。そんな決意を胸に夏休み返上で学校に通う日々が始まった。

コンペのテーマである「地域の暮らし」をどうとらえれば良いのか、そもそも建ぺい率って? 図面作成などに必要なパソコン操作もままならない手探り状態の中、「川端をヒントにしてみても」と担当の太田明博教諭のアドバイスに道筋が見え始めた。野菜や食器などを洗い、残飯などはコイが食べる。夏は果物などの冷蔵庫代わりに——。先人が考案し、今も受け継がれている環境に優しい川端について調べるうちにアイデアがどんどん湧いてきて面白くなっていったという。図面やスケッチ、設計趣旨を何度も練り直し、9月には湧水を張り巡らせた古民家の提案をA1サイズのボード1枚にまとめ、模型も作り上げた。子どもからお年寄りまで地域の人々がワイワイ集える建物として足湯やミニプールにも湧水を使う遊び心あふれるアイデアを盛り込んだ。地場産業の振興と環境保全も意識し、カーテンやシャッター、屋根には優れた水質浄化機能を持つ琵琶湖のヨシを活用することにした。水の重要性を油田に例えた提案は「古さと新しさを融合し、地域の人と自然をつなぐ楽しい暮らしが伝わってくる」と審査員4人全員に絶賛された。1年生の受賞という快挙に、本人はもちろん周囲も驚きを隠さない。

建築士を目指そうと思ったきっかけは自宅の改築だった。設計図面を広げて打ち合わせをする様子を見て興味を抱いた。建築デザインコースへの進学を決めた娘に父親は当初「そんな簡単じゃない。厳しいぞ」と心配したが、今は一番の応援者だという。「家族には提案への意見を聞くなど力になってもらいました。父の言葉通り甘さも実感したと同時に、賞を頂いたことで一層意欲がわきました。これからも色んなコンペに応募したり建物を見に行ったり勉強したいことがいっぱいです」と瞳を輝かせた。

(取材 M. Y)



昨年12月、同校で表彰式を受けた古閑さん(右)と太田教諭(左)



湧水をより便利に、楽しく活用するアイデアを盛り込んだ提案「わたしのまちの油田」

## 湖南支部

### 造幣局へ行ってきました

去る、1月26日(木)湖南支部の研修事業として、大阪造幣局と、アサヒビール吹田工場の見学に行きました。天候にも恵まれ、16名の参加が有り、有意義な1日でした。

誰もが好きな「okane」と「osake」の製造工場の見学とあって、期待もひとしおです。当たり前のことですが、どちらの工場も、徹底したオートメーション化で、工場内は人影もまばらです。整然と並んだ機械によって、製品が続々と作りだされる様は、壮観そのものでした。しかし、厳しい品質管理がなされているとの説明を受け、同じように、物づくりを生業とする我々にとっても、背筋が伸びる思いでした。

最後に、おいしいビールを試飲させてもらい、心地好い余韻を胸に帰路につきました。



造幣局工場内見学



造幣博物館前にて



アサヒビール吹田工場

## 湖北支部

### 平成23年度湖北支部・同賛助会通常総会開催

開催日時：平成23年4月23日（土）16:30～

開催場所：グランパレー京岩

4月23日(土)平成23年度通常総会を開催致します。また、18:00から懇親会を開催致します。

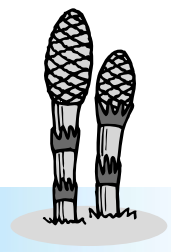
今年も建築施工管理技士会長浜支部と合同の懇親会を行う予定です。会員ならびに賛助会員、建築施工管理技士会会員も交え恒例のビンゴゲームなどで楽しく懇親をはかれましたらと思います。一人でも多くの方の御参加をお待ちしております。

総会・懇親会の案内は、湖北支部会員の皆様に3月下旬には郵送させて頂く予定をしております。詳しい内容は案内を参考にしてください。

## 新入会員のご紹介

支 部	氏 名	住 所
湖 南	山 崎 龍 太	野 洲 市
甲 賀	北 村 仁 司	甲 賀 市
	早 苗 賢一朗	東 近 江 市
	望 月 隆 裕	湖 南 市
湖 東	猪 田 洋	京 都 市
	大 森 正 渡	蒲 生 郡
	寺 島 悠 平	蒲 生 郡
彦 根	坪 田 ゆかり	彦 根 市
湖 北	藤 居 茂 博	長 浜 市
	前 畠 徹	長 浜 市
湖西高島	志 村 敦	高 島 市

平成23年2月理事会承認分



## 3月の暦

1	火	先負	機関誌「家」特別委員会	12	土	先負							
2	水	仏滅		13	日	仏滅			23	水	友引	・四役会 ・平成22年度 臨時総会 ・四役、委員長会議	
3	木	大安		14	月	大安							
4	金	赤口		15	火	赤口			24	木	先負		
5	土	友引		16	水	先勝			25	金	仏滅	機関誌「家」知事対談	
6	日	先負		17	木	友引	青年部会運営委員会		26	土	大安		
7	月	仏滅		18	金	先負			27	日	赤口		
8	火	大安		19	土	仏滅			28	月	先勝		
9	水	赤口		20	日	大安			29	火	友引		
10	木	先勝		21	月	赤口	春分の日		30	水	先負		
11	金	友引	公益法人化説明会	22	火	先勝			31	木	仏滅		

# あきんど号ラリー参戦記

## 1991年オーストラリアン サファリラリー参戦

当時、国内の4×4トライアル（制限コースを時間内に減点方式で競う競技）に参戦していたが、違和感を持ちかけていた頃、日本に初めてパリダカを紹介し、最多出場をしていた横田紀一郎氏との出会いがあり、大きく心を動かされた。そして、

5年以内に自分も「国際ラリーに参加する」と言う夢を持ったのである。しかし、その国際ラリー参戦5ヶ年計画は2年目にして壁にぶち当たってしまった。1990年6月に胃の5分の4を摘出する大手術を受けた。誰もが、もう海外ラリーには行けないだろうと考えた。しかし、相方は私の病院のベッドに英語のレギュレーションを持ってきて「訳しておけ」と言う。「もたもたしている場合じゃない、早く回復してオーストラリアに行くんだ」と言う彼独特の励ましであった。手術後、体重は8kg減ってしまっていたが、スポーツジムに通うなど頑張っただけで体力作りをし、8月にオーストラリア参戦が実現する事となった。

初代「あきんど号」は、1982年式のランドクルーザー、3,400ccのディーゼル車である。ダストシュノーケル（エンジンに埃が入るのを防ぐ為の煙突の様な物）を付けているため高速道路でも120km/hしか出ない。この車でシドニーからダーウィンまでの11日間8,500kmのレースに参加したのである。車はレースの2ヶ月前に船で送り、シドニーで車を引取りに行くと、港湾ストライキで車が出てこない。毎日事務所に通い、ようやくスタートに間に合った。この時オーストラリア人気質を知った。少し待てと言う意味で「1分待て」と言うが、実は10分待ての事で、「10分待て」は1時間、「1時間待て」は残念ながら今日はもう無理だと言う意味なのである。そして、続く言葉が「ドンウォーリー」「ノープロブレム」である。1991年8月8日オペラハウスやハーバーブリッジで有名なシドニー市ロックスから、大観衆の中、ラリーのスタートである。初日は6kmのSS（競技区間）と約470kmのRS（移動区間）である。途中、ブルーマウンテン国立公園の山岳地帯では、吹雪に出会ったが無事ゴールする事ができた。キャンプ地では、毎日砂漠に大レストランが作られ、大会事務局が開設され、数メートルもあるパラボラアンテナを油圧で動かし衛星を捕らえ、一瞬のうちに公衆電話も設営される。二日目の朝、



シドニーオペラハウスをバックにスタートセレモニー

暗い中スタート。明るくなると土が赤くアウトバックの世界に飛び込んでいるのを実感する。初めてのルートマップも意外なほど正確に読む事ができている。乗り心地が半端なく悪いのと、先行車が舞い上げたパウダー状の埃（ブルーダスト）が霧のような状態で視界をさえぎる以外は、特に大きな問題も無く不思議なほど順調にキャンプ地にゴールする。約740km、まさにオフロード三昧である。日本では味わう事の出来ない別世界である!!

しかし、3日目の夕方、3本目のRSを走行中にふと、ヘッドランプが暗い事に気が付く。オルタネーター（発電機）の故障だ。砂漠の夜は真っ暗で、ライトが使えないと致命傷である…。



プロローグランあきんど号

## 滋賀の街道(西近江路)

安土城に次ぐ豪華華麗な名城とされる坂本城は、織田信長による山門焼き討ちのあと、明智光秀によって建造されました。実際に城があったところはこの石碑から200m先の湖岸とされており、水中に石垣を残しています。

築城が1571年ごろ、1582年の山崎の合戦の直後に焼失し、丹羽長秀により再建されますが数年で大津城に移されました。

坂本城は明智光秀とともに史料が少なく、それ故謎めいた魅力をもっています。

## 大津市下阪本「坂本城跡」

